

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700163
法人名	医療法人 徳寿会
事業所名	グループホームのぞみ
所在地	徳島県吉野川市鴨島町内原432番地 (電話)0883-24-2200
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 5日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年 3月 27日		
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36 人
職員数	26 人	常勤 26人,非常勤 0人,常勤換算	①6人,②7人,③7人,④6人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	共益費3,000円,水道光熱費9,450円	
敷 金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	31 名	男性	6 名	女性	25 名
要介護1	11 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.7 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・鴨島病院	・石田歯科医院
---------	-------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

吉野川市の中心部に位置しており、商業中心の地域にあり、生活面での買い物や外出する場合は数多く、地域との交流に関しても地域を有効に活用している。国道192号線沿いで交通量は多いが、周囲には田園地もあり、緑豊かな土地柄である。病院が隣接しており、緊急時の医療体制には恵まれている。ユニットは4ユニットあり、県内でも大規模なホームに入るが、個々のユニットの特色をケアの面や運営面にうまく活用できている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった「理念の簡略化」「家族との連携」「介護計画への地域資源の利用」「地域住民との交流」について全職員で話し合い改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットのリーダーがユニットに自己評価を持ち帰り、全職員で検討した内容を、管理者がまとめ、改善点の共有を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年立ち上げ、今年度は3ヶ月に1回を目途に開催されている。参加者は利用者、家族、自治会代表者、事業所代表者で構成されており、行政職員、地域包括支援センター職員の参加はされていない。会議では、活動状況の報告や、メンバーからの要望や助言をもらい、ホームのサービスに活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱や苦情相談窓口を設置し、苦情等があった場合は迅速に対応している。また、家族会で協議された意見や苦情についても迅速に対応しており、信頼が得られるようになっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭り等には利用者と共に参加したり、シルバーのサークルとレクリエーションを通して交流している。また、学生のボランティア訪問もあり、交流を深めている。</p>

2. 評価結果（概要）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして理念の見直しがされており、事業所独自の理念が作り上げられている。	<input type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員を含めて毎朝の朝礼で唱和し、日々実践を心がけている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動や地域の祭事などの行事に積極的に参加し、地域住民と密な連携がとれている。また、小学生の訪問があり、入居者との交流の場を持っている。ホームとしては地域住民が来所できる機会を多く企画し、地域との交流する場を絶えず持ち続けている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	重要事項説明書に記載されている権利、義務に関して毎回の朝礼で周知を呼びかけたり、今回の評価に関しても、各ユニットごとにスタッフ全員で取り組み、日々の中での改善点の共有化を図ることができている。	<input type="checkbox"/>	
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年立ち上げ、今年度は3ヶ月に1回を目途に開催されている。参加者は利用者、家族、自治会代表者、事業所代表者で構成されている。会議では、活動状況の報告や、メンバーからの要望や助言をもらい、ホームのサービスに活かしている。行政職員、地域包括支援センター職員の参加はされていない。	○	2ヶ月に1回開催されたい。行政職員または地域包括支援センター職員に参加してもらえるよう取り組んでいかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携について、現在において具体的な取り組みにまで至っておらず、今後の課題となっている。	○	市町村担当者に事業所の状況報告や相談など何らかの働きかけを検討されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや個々の手紙を添えるなど普段の暮らしぶりについての情報を提供している。毎月1回は面会に訪問してもらえるよう電話などで家族に働きかけ、利用者と家族との絆が途切れないような取り組みがみられる。金銭出納簿も確認してもらい確認印やサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置し、苦情等があった場合は迅速に対応している。また、家族の面会時や電話連絡や家族会などにおいて、ホームに対する要望や苦情を聞くよう取り組んでいる。しかし、家族会の記録の整備や職員への報告がされていない。	○	家族会の内容の記録や報告書の整備、職員への報告について検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動はほとんどなく、離職者も1年以内はない。異動や離職がやむを得ずある場合は時期や引継ぎを十分に行い利用者へのダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に合同で参加している。法人外の研修にもできる限り参加しており、報告もされている。職員全体に学習意欲は旺盛である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所との情報交換の場には積極的に出かけていき、ネットワークの強化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が初回の利用者であれば、体験利用や、事前に本人、家族などにグループホームでの生活に関して説明をしたり、本人が納得できるまで待つなど、時間をかけて進めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話の時間を多く取れるよう配慮し、お手玉と一緒に作成したりと共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1回、利用者の希望や意向をゆっくりと聞く時間を設けている。思いや意向の把握に努めそれらに添った生活支援がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望をもとに話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや状態の変化などによりカンファレンスが開催されており、ケアプランの見直しが随時できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望にあわせて、外出や通院など必要な時に必要なサービスが柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に添ったかかりつけの医療機関への支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のありかたについて話し合い、利用者、家族に同意をもらっている。また、入居後もその都度必要に応じて話し合いを行い方針の共有を図っている。終末期は家族に来てもらい、家族と本人の希望を聞き、かかりつけ医との連携も図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室、排泄、入浴時などに関して、プライバシーに配慮した声掛けなど配慮は十分にできている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活リズムを把握し、一人ひとりの希望に添った支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、一人ひとりに対する食事の楽しみを増やす取り組みがみられる。食事は併施設設でつくられ、ホームでは作っていない。	○	1品でも利用者とホームでつくることができるよう取り組んでいかれたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせた入浴支援がされている。しかし、浴室の出入りに段差があり、上がりにくい利用者もいる。	○	構造的に段差を解消する工夫を検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ズボンの裾上げや衣類の繕いものなど、一人ひとりの楽しみごとなどをアセスメントに記録し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一回はできるだけみんなで散歩に行く機会を設け、四季折々の景色を味わえるよう心がけている。また、利用者の希望に合わせて外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前が車の往来の多い道路であり、安全面から玄関の施錠をしている。	○	安全確保の面で施錠せざるを得ない環境にあるが、鍵を掛けない時間帯を作るなど検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で定期的に避難訓練をしており、利用者、職員全員で参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設病院の管理栄養士によりチェックをしてもらい、バランスのとれた食事を摂取できるよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計やカレンダーが見やすい位置に掲げられている。壁面には利用者と職員が合同で製作した作品を飾っており、生活感や季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに使い慣れた物品を持ち込まれ、中には仏壇を持ち込んでいる方もいる。一人ひとりが居心地よく生活できる居室作りがされている。		